

学級だよりの写真が動く?! 学校と家庭をつなぐ日刊動画新聞

朝来市立竹田小学校 教諭 國眼 厚志
キーワード：学級だより、AR、スマートフォン

実践の概要

東京書籍の「マチアルキ」にログインし、完成した学級だよりの画像と動画をアップロード。保護者は予めスマホでARリーダーアプリをダウンロード。学級だよりの写真にスマホのカメラを当てると数秒のカラー動画が再生。学級と家庭との絆がより一層深まる。

1. 実践の目的

本実践を行う國眼学級では十数年来、授業日数分以上の学級だよりを発行してきた。学級だよりには学級や学校で行ってきた行事や取組を報告したり、子どもたちの活動を紹介したりする役割があり、学校や担任と保護者をつなぐ貴重なメディアである。また、毎日発行することで、次の日の予定を知らせたり、持ち物や宿題についても記載できたり、忘れ物を防ぐことができる重要なツールにもなっている。もちろん、文字だけでは読みにくいので、適度に画像を挿入し、キャプションもつけ、子どもの様子を分かりやすくしている。また、パソコンからのプリントアウトをそのまま印刷すると写真の黒や灰色がベタとなり詳細が分かりにくいので、近年ではデータをUSB出力することで、プリントアウトせずにデータから輪転機にかけ、比較的高画質で配れるようにと工夫を重ねている(写真1)。

そんな中、東京書籍から「マチアルキ」というAR (Augmented Reality: 拡張現実) 技術を用いて位置情報や画像からタブレットやスマートフォンに動画やテキスト、画像などを映し出すシステムが提供された。位置情報で説明が受けられるので、地域学習や町探検に活用しようと考えた。位置情報からテキストや動画を映し出すシステムを試行していると、学級だよりに使えることが分かり、輪転機によるやや不鮮明な画像でもARが活用できることが判明した。保護者にアプリのダウンロード方法を知らせ、試しに数号発行してみた。効果は抜群で、すぐ



写真1 学級だよりは毎日発行

に連絡帳に感想が書かれ、できるだけ今後も続けて欲しいと希望された。通常の学級だよりでもかなりよく読まれているが、このAR動画を始めてから家族で奪い合うようにして見ているとのことである。その結果、しっかりと連絡や注意事項、持ち物などもよく読まれるようになり、忘れ物や宿題忘れも少なくなっている。担任と保護者の意思疎通がより良くなり、さらに絆が深まった感がある。

2. 実践内容

本実践を行うには保護者がタブレットパソコンかスマートフォンを持っていることが不可欠である。幸いに担任する子どもの保護者はすべてスマートフォンを持っており、全員がアプリのダウンロードができた。このように端末のOSがiOSもしくはAndroid、さらにはWindows10であれば無料で入手できるということが、普及の一番のカギであったと思われる。そして「マチアルキ」の当初の設定ではかなり鮮明なカラー写真の画像をカメラをかざすことで、クラウド上の動画とリンクする設定になっているということであったが、毎日出す学級だよりはA4サイズの変更であり、プリントアウトでは無く、輪転機によるやや不鮮明な画像である。それでもきちんと捉えられたことで、学級だよりとして毎日配布することが可能となった。これはどの学校のどの担任でもすぐに行えることで、必要な機材のハードルはとても低い。



写真2 ホイッスルが鳴り伏し浮きを始める

リンクする動画を作り、学級だよりに反映させる手順は①動画の撮影②動画の編集③動画から画像のキャプチャー④キャプチャーした静止画を貼り付けて学級だよりの作成⑤プリントアウト⑥プリントアウトしたモノクロの静止画をタブレットかスマートフォンで撮影⑦画像のトリミング⑧マチアルキのウェブで新しいコンテンツを登録⑨トリミングした画像をアップロード⑩編集した動画をアップロード ということになる。

手順として文字で書くとても大変なようだが、これらはほとんどスマートフォンかタブレットで完結できるため、実際に学級だよりを作る時間にプラスして一つの動画を反映させるのは5分程度である。動画編集は15秒程度に短くするというくらいの編集であり、動画から静止画のキャプチャーはパソコンのプリントスクリーンのボタンを押すだけである。本稿でもサンプル動画が参照できる。AppStore(iOS)、GooglePlay(Android)、WindowsStore(Windows)から「マチアルキ」のアプリを端末にダウンロードする。アプリを立ち上げ、「参加可能なコンテンツを探しています」が出る。次の画面で「参



写真3 突然音楽が鳴り、踊り始める



写真4 こうやってスマートフォンをかざす

加可能なスタンプラリー」や「体験コンテンツ」が選択できるが、ここでは「参加しない」を選ぶ。次の画面で「公開中のスタンプラリー」としてたくさんのコンテンツが出るが、その中で「竹田小 KOKU」を選択する。説明画面とともにダウンロードが始まる。ダウンロードが終了したら「参加する」としてカメラを本稿の写真2と写真3にかざす(写真4)と動画が始まる。動画は保存できないので個人情報は保護できる。

3. 成果

元々教室内では子どもの様子を記録しようとスマートフォンで静止画を撮影していた。同じように動画を撮影しているので子どもたちには違和感はない。撮影中「それまたマチアルキにするの?」と子どもによく言われる。動画が親たちに見られるのならしっかり発表しないといけないと思うのだろう。保護者は毎日の動画がとても楽しいようで、練習風景や授業風景を居ながらにして垣間見られることで満足感を得られている。学級だよりの編集に多少の時間は加わるが、この子どもと保護者が以前にもまして学級だよりに注目してくれたことは大変大きい。忘れ物や宿題忘れは本当に無くなり、さらに強固な絆で結ばれるであろうと予想できる。また、理科として不定期に「理科通信」を発行しており、カブトムシの蛹化、チョウの羽化やメダカの発眼、雲の動きなど、動画を配信できる。校内で「マチアルキ講習会」も行い、教員に向け、取組へのハードルの低さは理解できたようである。本実践を契機に動く紙媒体であるこの「日刊動画新聞」に多くの仲間が興味をもってもらえると幸いである。